

庭園アートプロジェクト 4月27日📅▶12月1日📅
*夜間公開期間中(9月上旬～11月下旬)は、20:00まで公開。



中谷美二子「白い風景—原初の地球」霧の彫刻 #47769, 2023年 ©Fujiko Nakaya



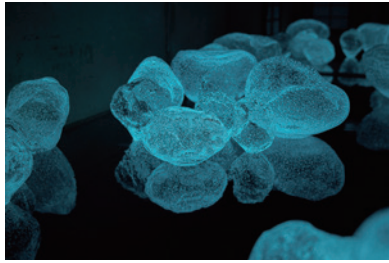
中谷美二子氏
Photo: Laura Miglione

中谷美二子 霧の彫刻—体・音・光

2022年度からスタートした「霧の彫刻」3部作の制作プロジェクト。7月よりアーティストグループ「ダムタイプ」の創設メンバーである、高谷史郎とのコラボレーションを展開予定。1作目《白鷺が飛ぶ》、2作目《白い風景—原初の地球》に続く第3作目は、「体・音・光」をテーマに新しい風景を創出します。

- 休場日：月曜日(祝日・休日の場合は開場し翌平日休場)
- 料金：無料 ※会期中途中で作品が変貌します。詳細はHPをご確認ください。

Special Exhibition [企画展示] * ()内は20人以上の団体料金



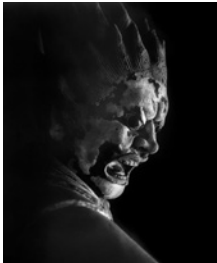
佐々木翔(招待作家)《水の記憶》2021年 作家蔵 撮影:Nik van der Giesen

4月27日📅▶6月23日📅

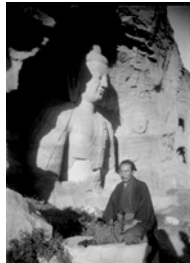
プリズム

—見えない光を捉えるアート
プリズムを通して光のひとつのあり様を知るように、目に見えない何かを自分なりに理解し、表現しようとするのは、人類が長い歴史の中でやってきたことです。本展では「光」を切り口に、当館の所蔵品を中心として、光の表現の多様性とアートについて考えます。

- 休館日：月曜日(ただし4/29、5/6は開館)、4/30📅、5/7📅
- 料金：一般700(500)円/大高400(200)円/中小200(100)円



小川晴暘
(新薬師寺金堂 十二神将・伎折羅大将像)
©Asukaen.Inc



《雲岡石窟記念写真》
©Asukaen.Inc

7月6日📅▶9月1日📅

小川晴暘と飛鳥園 100年の旅

小川晴暘は、仏像写真を芸術の域にまで高めた姫路市出身の写真家で、奈良の文化財に感銘を受け、国内のみならずアジアでも撮影を行いました。1922年に晴暘が創業した写真館「飛鳥園」は、100年を迎える現在も続いており、本展では晴暘の作品を中心に、飛鳥園の活動を振り返ります。

- 休館日：月曜日(7/15、8/12は開館)、7/16📅、8/13📅
- 料金：一般1,000(800)円/大高600(400)円/中小200(100)円

隈研吾@書寫山圓教寺三之堂
4月20日📅▶6月15日📅：ワークショップ
6月16日📅▶12月1日📅：展示



書寫山圓教寺 三之堂



パビリオン(くぎくも) イメージ

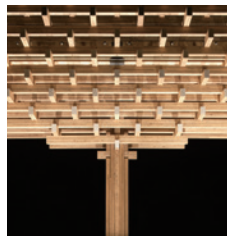
圓教寺×隈研吾 生き延びるためのデザインワーク： これからの用の美

西の比叡山と呼ばれる名刹・書寫山圓教寺では、世界的建築家である隈研吾が、摩尼殿と三之堂に触発されたパビリオン《くぎくも》制作と、「はづき茶屋プロジェクト」を展開します。市民参加によるワークショップも実施予定です。



隈研吾氏
©J.C.Carbonne

- 無休
- 料金：無料(ワークショップの参加には材料費等が必要になる場合があります)*別途、圓教寺拝観志納金が必要です。



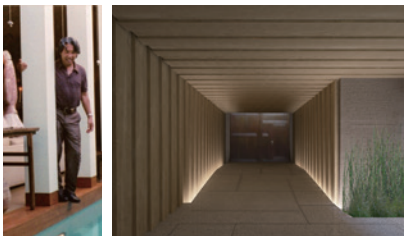
左:「つんつん」の参考事例 (GC プロミュージアム・リサーチセンター, 2010, 愛知 ©Daici Ano)
右:隈研吾がリノベーションをおこなった 高田賢三の旧邸宅 のイメージパース ©隈研吾建築都市設計事務所

9月21日📅▶11月17日📅

隈研吾流オノマトペで見る建築 姫路編

隈研吾が自身の建築作品をマケットや写真、素材で紹介しつつ、姫路城、書寫山圓教寺、姫路市立美術館という姫路の「三大建築」の魅力をつんつん、「はらばら」といった「オノマトペ」を使って紐解きます。隈研吾流姫路建築マップの配布や、「休憩所づくり」のワークショップも開催予定。今までにない姫路の建築の魅力を深堀りします。

- 休館日：月曜日(9/23、10/14、11/4は開館)、9/24📅、10/15📅、11/5📅
- 料金：一般1,400(1,200)円/大高800(600)円/中小400(200)円



左:高田賢三氏(旧邸にて)
右:隈研吾がリノベーションをおこなった 高田賢三の旧邸宅 のイメージパース ©隈研吾建築都市設計事務所

12月7日📅▶2月2日📅

The Collection Meets KUMA Kengo 過去から未来へ生き残るデザイン

隈研吾と当館学芸員の協働で、当館所蔵品と隈の空間デザインとのコラボレーションを展開。姫路生まれのファッションデザイナー、高田賢三のバリ中心街にある旧邸宅のリノベーションを担当した隈研吾。隈が敬愛する高田賢三へのオマージュとなる本展では、邸内を映像再現し、高田賢三の遺愛品を展観します。

- 休館日：月曜日(1/13は開館)、年末年始(12/28～1/3)、1/14📅
- 料金：一般700(500)円/大高400(200)円/中小200(100)円



Collection Gallery [コレクション展示] ●会場：コレクションギャラリー ●料金：無料

4月13日📅▶6月23日📅

水辺を描く

海・湖・川といった水辺は、風景画の重要な主題としてしばしば描かれてきました。海に囲まれた日本では、穏やかな瀬戸内海に波の荒ぶる日本海と様々な表情をもった海を見ることができ、また内陸の湖や川であっても季節や天候、時間により豊かな変化があります。本展は、当館蔵の近現代日本絵画の中から水辺を描いた風景画を紹介します。ひとくちに「水辺」といっても作家や描かれた舞台、技法材質によって大きく異なる多彩な作品世界をお楽しみください。



関根正二《海(鏡子)》1916年 油彩・布

6月29日📅▶9月1日📅

夏休み子どもギャラリー 見てみよう 作品はアイデアの宝庫

2022年度から2023年度にかけて、姫路市立美術館が新たに収蔵した作品を展観します。大人も子どもも一緒に作品鑑賞しながら、作品の中の色々なアイデアや魅力を見つけ、楽しむことができる展覧会です。

庭山耕園《月秋月見草図》1916年 絹本着色



9月14日📅▶11月17日📅

超入門! 美術刀剣鑑賞のいろは

近年、各地の美術館で展覧会が開かれ、注目を集める日本刀。しかし、「刀ってどれも同じに見える、違いがわからない」「どこを見たらいいの?」こんな疑問を持たれたことはないでしょうか。本展では当館所蔵刀剣を、美術における基礎的な鑑賞ポイントとともに展観します。



《刀 銘 出羽大掾藤原兼国路》江戸時代前期 17世紀

11月30日📅▶2月2日📅

ちょっと昔の姫路の風景

絵画は写真以上に実際の雰囲気や情景を伝えていることがあります。街の情景を描いた絵からは、それが描かれた当時の空気や、人々の生活なども感じることができでしょう。本展では姫路を描いた風景画をご紹介します。いずれも少しだけ昔の風景で、今では失われた情景も多く含まれています。思い出の風景をお楽しみください。



川西祐三郎《書寫山》1980年 木版・紙

2月8日📅▶3月14日📅

静けさに耳を澄ませます

絵画や彫刻が表現するのは、目に映る「かたち」だけではなく。作品の世界からは「音」も聞こえてきます。本展では、それらのなかから「静けさ」に注目します。ひとくちに「静けさ」といっても、全くの無音から、たとえば「しんと降り積もる雪」のように表現される印象上の静寂まで、その場面や性質は様々です。当館所蔵の作品を通じて、多彩な「静けさ」に耳を澄ませてみませんか。

レオン・スピリアルト《オステンドの灯台》1908年 色鉛筆、淡彩、墨、バステル・紙

